

履修年度	2024
担当教員	湯川 志保
連番	
曜日・時限・開講期	月曜日 2時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
分野系列	(経済学部専門科目)
学年	1年生
単位	2
開講キャンパス	東松山
科目ナンバリング	120ECPO0711 J
科目とDPの関連	
備考	
最終更新日	2024/1/11 20:04

授業の概要	この授業は、これまでの日本経済の歩みと近年の日本経済の様々な問題を取り扱います。この授業を通じて、日本経済の軌跡や現在の日本経済が抱える問題についての理解を深めるとともに、経済学的な視点から様々な事象を分析できるようになってください。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の現状と特徴を理解できる。 ・日本経済について経済学的な視点から分析できる。 	
DP一覧表		
授業の方式	対面方式	
授業の方法①	講義形式の授業を行います。P Cとスクリーンを使用。授業前に課題等で事前学習し、授業では復習や応用を行うこともあります。	
授業の方法②	特徴	該当有無
	A：企業や自治体と連携した課題解決型学習（PBL）	
	B：討議（ディスカッション、ディベート等）	
	C：グループワーク	
	D：プレゼンテーション	
	E：実習、フィールドワーク	
	F：双方向授業（I C T活用あり：クリッカー、DBmanaba等）	
	G：双方向授業（I C T活用なし：対話型、リアクションペーパー等）	
	H：授業前に課題等で事前学習し、授業では復習や応用を行う（反転授業）	あり
	I：外国語のみで行われる授業	
	J：インターネットを通じて無償で入手可能な授業教材等を利用した授業	
	K：統一試験結果に基づくクラス編成による授業	
	L：少人数クラス編成による授業	
M：国内の特定の地域に対する理解を深めることを目的とした授業		

	授業内容	担当教員
第1回	ガイダンス	湯川志保
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間
	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
第2回	授業内容	担当教員
	日本経済を捉える:現代経済の仕組み 日本経済の姿 日本経済の課題	湯川志保
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間
	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
第3回	授業内容	担当教員
	日本経済社会の変化とくらし(1)：経済復興期～第1次オイルショック期	湯川志保
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間
	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
第4回	授業内容	担当教員
	日本経済社会の変化とくらし(2)：バブル期～低成長期	湯川志保
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間
	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
	授業内容	担当教員

授業 計画	第5回	少子高齢化(1)：少子高齢化の現状と課題	湯川志保
		準備学修（予習・復習等）	必要な時間
		配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
	第6回	授業内容	担当教員
		少子高齢化(2)：少子化対策	湯川志保
		準備学修（予習・復習等）	必要な時間
	第7回	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
		授業内容	担当教員
		中間テストとこれまでのまとめ	湯川志保
	第8回	準備学修（予習・復習等）	必要な時間
		日本の社会保障(1)：医療保険	湯川志保
		配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間
	第9回	授業内容	担当教員
		日本の社会保障(2)：年金	湯川志保
		準備学修（予習・復習等）	必要な時間
第10回	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間	
	授業内容	担当教員	
	日本の社会保障(3)：生活保護	湯川志保	
第11回	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
	日本の労働市場：日本の労働市場の現状	湯川志保	
	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間	
第12回	授業内容	担当教員	
	日本の金融・金融政策：金融の仕組み 日銀と金融政策	湯川志保	
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
第13回	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間	
	授業内容	担当教員	
	日本の財政・財政政策：政府の役割と財政の機能	湯川志保	
第14回	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
	貿易：日本の貿易	湯川志保	
	配布資料を見直し、授業内容を確認する。	4時間	
第15回	授業内容	担当教員	
	総括とテスト	湯川志保	
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
		配布資料を見直し、これまでの授業内容を確認する。	4時間

フィードバックの方法		課題についてのフィードバックは個々の学生に対して行う予定です。
教科書		授業の各回に適宜レジュメを配布します。
参考文献など		G・ポリア『いかにして問題をとくか』、第11版、丸善、1975年、1620円(税込) 芳沢光雄『いかにして問題をとくか・実践活用編』、丸善出版、2012年、1512円(税込)
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)
	筆記試験	0 なし
	実技評価	0 なし
	レポート評価	40 授業中に適宜出題する問題の解答によって判断する。正解していれば良いのではなく、どのように頭を使ったのかが重要です。正解していなくても、思考過程によっては高い評価をすることがあります。
	平常点評価	60 問題に対する取り組み方に対して判断する。
その他	0 なし	

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ●1年次の秋に行われる入室試験に合格しないと履修できません。 ●原則として、2年次に履修した「専門演習Ⅰ」の教員によって開講される3年次の「専門演習Ⅱ」を受講することになります。 ●この科目を履修中もしくは履修し単位を修得した学生は、「一般演習」を履修することはできません。
連絡先・連絡方法など	授業中に質問していただいて構いません。または、メールにより連絡してください (tmura@ic.daito.ac.jp)
実務経験①	あり
実務経験②	担当者は実務経験者として、コンピュータプログラミング、ハードウェア保守、情報ネットワーク構築、統計調査、経済分析に従事したことがあり、その経験を生かした授業を行っていく。
その他	自分から進んで考えていく意欲ある学生が望ましい。教員はそれを補助するものだと考えていただきたい。また、サボると作業量が等比級数的に増えてしまって面白くなくなるので、サボらない学生の方が向いていると思われる。